

# 平成30年美濃加茂市教育委員会 12月定例会 会議録

## 1 開会日時及び場所

平成30年12月25日(火) 午後3時00分から午後4時30分まで  
美濃加茂市役所分庁舎4階 第1会議室

## 2 出席者

(教育委員)

教育長 日比野 安平  
委員 鹿野 久美子  
委員 矢島 良子  
委員 高野 光泰  
委員 渡邊 博栄  
委員 手嶋 秀人

(事務局)

事務局長 小田島 史佳  
学校教育課長 社本 勝義  
教育センター次長 山内 章  
教育総務課課長補佐 長谷川 壮重

## 3 開会 午後3時00分

## 4 議事日程等

(1) 教育長あいさつ

(2) 会議録署名委員の指名

(3) 11月定例会会議録の承認について

(4) 協議・報告事項

- ① 教育委員会行事予定等について
- ② 教育センター事業報告

(5) その他

# 会 議 録

## (1) 教育長あいさつ

日比野教育長

※教育長から開会のあいさつ

- ・来年度の県警の防犯ポスターで最優秀賞 6 作品の一つに山手小学校の児童の作品が選ばれ、ポスターに掲載されている。このポスターは 1 年間県下の小学校に掲示される。
- ・1 2 月 2 1 日の毎日新聞に蜂屋小学校 2 年生の児童の読書感想文（県の最優秀賞）が掲載された。「しげちゃん」という題名の本。この児童も自分の名前でもじめられたことがあったけれど、名前の意味を知って悪くないなと思い始めたというもの。児童の祖母が報告に来庁された。
- ・1 1 月末に伊深小学校にて I C T 教育について公表会が行われた。全児童にタブレットが渡してあって、上手に授業が行われている。よく考えられた授業であった。
- ・1 1 月 3 0 日、来年度各学校へ入学する新入学児童の数がまとまった。小規模特認校制度利用者は、伊深小学校 3 名、三和小学校 3 名の予定である。制度について更に市民に知っていただけるようにしたい。
- ・文化の森で開催された「わくわくドキドキ科学の広場」には、大勢の方が来場された。子ども展と同時開催であった。学校の先生方がブースを設けて科学を紹介した。
- ・文化会館で行われた「わくわくサイエンスショー」はプロの講師によるもので、大変好評であった。
- ・市議会は 1 2 月 2 0 日が最終日であった。
- ・防犯カメラを中部電力、N T T の電柱に設置する。伊深小学校区で設置のセレモニーが催された。防犯カメラの除幕式を下校時間に合せて行い、児童も同席した。
- ・防犯灯の間隔の目安としての基準が 8 0 m から 4 0 m に変更になり、増設される。
- ・アレルギー対応に関する質問があった。
- ・インフルエンザの予防接種への補助に関する質問があった。予防接種した学級としなかった学級とを比較すると予防接種した学級のほうがわずかに学級閉鎖が少なかったというデータがある。又、体質的に予防接種を受けられない子どももいる。市としては補助しないとの回答であった。手洗いやうがいを励行し、早く体を休めるよう心掛けることもお伝えした。
- ・1 2 月 4 日、美濃加茂市内の県養豚研究所で豚コレラが発生。当該研究所では 5 0 3 頭が殺処分に。検体を東京の機関で検査するのに時間を要したため、なかなか判定が出ず、真夜中の 3 時に陽性であることが判明。プラザちゅうたいにて防護服の着用や従事者の健康診断を行

った。市職員は3日間、8時間3交替でプラザちゅうたいでの作業に従事した。感染したのは数頭であっても全頭を処分しなければならない。殺処分された豚は県研究所の近隣にある県所有地に埋却した。雑木林を開墾して埋却用の穴を掘るのは大変な作業であった。

- ・今朝は、関市内の約7500頭を飼育している養豚業者で豚コレラが確認された。自衛隊を要請した。
- ・愛知県犬山市でも野生のイノシシが感染していた。
- ・まだ収束する気配がない。感染経路が分からない。美濃加茂市にも約500頭を飼育している養豚業者がある。半径5km内のエリアでは、出荷停止となっている。
- ・ワクチンで抑えることはできるが、岐阜県でワクチンを使うと、日本中の養豚業に影響してしまう。「汚染国」となると海外への輸出対象国が限定される。ワクチンを野生のイノシシに摂取させることは困難。完全に大丈夫となるには相当な年月が必要であると言われている。
- ・当市では今、農林課や土木課、健康課で対応しているが、今後も広がっていくことになった場合は全職員体制になることもある。
- ・何とか早く収まることを願いつつ、良い年を迎えたい。

## (2) 会議録署名委員の指名について

日比野教育長

次に会議録署名委員の指名についてですが、今日は、鹿野委員にお願いいたします。

鹿野委員

はい、よろしく申し上げます。

## (3) 11月定例会会議録の承認について

日比野教育長

次に、11月の定例会の会議録についてです。会議録はお手元に届いていたと思います。委員さんから事前にご連絡をいただいた分については表にしてお配りしておりますが、その他でお気づきのことがありましたらお願いします。

※意見等なし

日比野教育長

それではご意見も無いようですので、11月定例会会議録は修正箇所を修正して承認いたします。

#### (4) 協議・報告事項

##### ① 教育委員会行事予定等について

日比野教育長

協議・報告事項に移ります。  
まず、教育委員会行事予定等についてお願いします。

社本学校教育課長

※資料に基づいて1月、2月の行事予定を説明  
・1月22日(火)： 可茂地区「小学校外国語スタートアップ」事業研修(加茂野小学校)  
・2月 2日(土)： 4課合同子育て学習会「『スマホ時代』を生きる子どもたちのために～今、大人が知っておきたいこと～」

日比野教育長

この子育て学習会について、講師の竹内氏の講演が一昨年、県図書館であったので聴講したことがあり、私も勧めて、ようやく当市での講演が実現しました。竹内氏は、元々は中学校の先生で、今は兵庫県立大学の准教授です。

講演では、ご自身のスマホを使って映像を映しながら、実演されました。子どもたちを取り巻く様々な事件があるのですが、子どもたちへのスマホの普及によって事件・事故に繋がっていくことがあります。スマホに関わる課題について具体的な話をしてくださると思います。

こういうICT機器といいますか、SNSが広がっていきますと、便利になると同時に新しい事件が増えていきます。LINEの問題がよくあって、LINEのやりとりなども全部記録に残っていますから、こんな風にして事件が起こってくるんだというのが分かります。

このようなことを心配しなければならなくなったのはほんの最近です。運転中に某スマホゲームをやりながら交通事故を起こすというのはいまだにあるようなんですけども、このような問題は10年ほど前は全く考えられなかったことです。ここ数年で急激に台頭してきた課題です。そのような内容の講演会です。よろしければご参加ください。

##### ② 教育センター事業報告

山内教育センター次長

※配布資料に基づき報告。  
○小学校音楽会の反省について  
・概ね、良かったという感想をいただいている。楽曲そのものの表現の仕方や構成などに工夫があって良かったなど。  
・反省点としては、鑑賞というよりも合間の休憩やトイレに行く時のマナーや挨拶などについて、継続して指導していくべきとの意見があった。

- ・来年度は文化会館が改修工事を行うため実施できない。
- 子ども展の反省について
  - ・子どもたちの自由な発想や表現の質の高さなどの感想をいただいた。
  - ・観る側も感性が磨かれる。作品展の素晴らしさを感じたなど。
  - ・中学生の美術を鑑賞した子どもが「このような作品が作りたいからこの中学校に通いたい」と言ってきたので困ったとの感想もあり、それくらい素晴らしい作品があったものと考えている。
- 「わくわくドキドキ科学の広場」について
  - ・約500人が来場した。ブースのスペースを例年より広くした結果、混雑を避けることができ、体験がたくさんできて良かった。学校の先生やサイエンスワールドから来てくださった先生、関西電力からも講師として来ていただいた。来場する児童は低学年が多く、少し難しい内容のものもあったが、親子で取り組んでおられた。もう少し高学年の子が来てくれると良い。
- 教育実践論文の審査について
  - ・最優秀賞・優秀賞・特別賞・入選が決定され、2月28日が表彰式。教育委員の皆様にもご出席いただきたい。
- 不登校の現状について
  - ・小学校はほぼ横ばい。中学校は多い人数で横ばい。5月以降、不登校で30日以上欠席した子は中学生が多い。病気やケガ、その他の理由での長期欠席もあり、不登校ではない場合もあるが、年間の人数をグラフに表しているのをご覧いただきたい。不登校・病気・ケガ・その他も含め、休んでいる子の中で3分の1が90日以上となっているので心配である。
- あじさい教室について
  - ・ゆず狩りとジャム作り、明王山登山、野菜の収穫と天ぷら作り、冬山体験、干し柿作りなど、たくさんの体験活動をとおして多くの子ども達が元気になり、また自信を持つてくれた。学校にも行けるようになった子もいる。ずっと行けなくても水曜日のチャレンジデイに行けるようになったり、合唱祭や定期テストに参加できるようになったりした子もいる。
  - ・12月21日はインフルエンザや風邪のため、終わりの会が実施できなかったのは残念。
- いじめ等の問題行動の現状と対応・指導について
  - ・いじめ認知件数について。重大事態は発生していない。
  - ・いじめ発見のきっかけは、平成28年度から平成29年度始め頃までは保護者からの訴えが多かったが、平成29年度途中からは本人からの訴えが増えてきた。本人が訴えてくることは良い。いじめられても誰にも相談できないというのではなく、相談にのって欲しいと訴えてきているので良い傾向である。
- 暴力などの問題行動について

- ・全国的には小学生が多くなってきている旨の報告があるが、本市においては小学校では減少の傾向にあると言える。
- ・感情がコントロールできない児童の指導方法などの研修が必要であり、一人一人に寄り添ったきめの細かい指導、子どもの資質や性格、家庭環境などをきちんと理解したうえで指導援助に当たっていかなければならない。
- 美濃加茂市における少年の刑法犯による検挙・補導人数等
  - ・本市においては年々減少している。
- 生徒指導SVとしての動き
  - ・学校を訪問したり、家庭訪問や相談に乗ったりしている。
- あじさい発達相談件数について
  - ・継続の子に新規の相談が加わって件数は減って行かない。すでに昨年度の件数を大幅に上回っている。
  - ・幼保から小学校、小学校から中学校への入学、進学時に、学校での情報がうまく引き継がれていないケースがあり、問題解決が長引く場合がある。
  - ・保育園や幼稚園への巡回相談も行なっている。
  - ・保護者からの期待への対応が難しくなっている。保護者からの要望や考え方を理解することが大切であり、児童生徒だけでなく保護者のことも十分に理解し、情報を共有して支援に当たっていくことが大切である。

日比野教育長

あじさい発達相談は、私立幼稚園も巡回するようになったので、その件数が増えているということもあるかと思います。

特に低学年の子ども同士のトラブルは発生しやすく、じゃれ合いからつかんだり引っ張ったりして喧嘩になりやすいため注意していないといけない。

いじめについても、いじめた側もいじめられた側も我々教員にとってはどちらも大切な子どもですので、加害者だけ叱っておればいいというものでもないですし、加害者のケアも被害者のケアも必要です。この子たちをきちんと育てて社会へ送り出すという使命があると思っています。いじめやいじめられというのを全く経験無しに成長する子というのはむしろ少なく、多くは何らかの形で成長過程で経験するというのを私達は目の前で見てきています。

手嶋委員

いじめについて言えば、例えばサッカーが上手い故にいじめられるということもあります。飛び抜けて優秀だといじめの対象になってしまうというケースが多いです。

日比野教育長

大雑把な分析ではありますが、優秀な子がいじめられるというのは日本や韓国に傾向があるそうです。アメリカやヨーロッパはそうではない

	<p>ようです。国によって傾向は異なるようですが、目立つといじめられるのです。</p> <p>私たちはどちらの子どもにも意を注いでいかなければいけませんし、そのためには保護者の理解と協力は不可欠だと思っています。</p>
手嶋委員	<p>あじさいサミットのことですが、テーマは「恕」という言葉一つなのですか。毎年同じなのでしょう。小学生や中学生には難しくないのでしょうか。「恕」は仏教用語だったと思います。う冠に有りと書いて「宥恕」。人を許す心という意味ですが、「怒り」と間違われたりしないですか。</p>
日比野教育長	<p>ご指摘はいろんな方からもあると思っております。「恕」は、途中から使うようになったのです。難しい漢字ですが、学級の目標にしているところもありまして、教師がどのように子どもたちに伝えているかということもあります。「恕」というテーマを通してやっていくことも意味があるものとも思います。私も手嶋委員と同じことを感じたことがあります。</p>
手嶋委員	<p>「宥恕」という言葉は大学生でも辞書で調べないと分からないと思います。高校生や大学生でも難しい言葉です。</p>
山内教育センター次長	<p>サミットの当日、全体の会議の中で言葉に触れる時間が取れていないのですけれども、事前には生徒たちと会をどのように進めるか打合せをしておきまして、そのときに「簡単に言えば思いやりの心だよ」ということで、「恕」の意味を理解して取り組んでおります。サミット当日にはその意味の説明がないので、理解が得られなかったかもしれません。他に良い言葉があればと思います。貴重なご意見をありがとうございます。担当者とも相談し検討していきます。</p>
日比野教育長	<p>学校の代表が各校に持ち帰ってどう伝えているかということですが、伝えるのは難しいとは思いますが、先生が各学校でどこまでバックアップできるかということです。</p> <p>他にはありませんか。</p>
社本学校教育課長	<p>いじめについてですが、国の定義が変わりましたので認知件数は若干増えています。平成29年度は、小学校9校中7校が認知していました。残りの2校は「0件」でした。「0件」の場合、保護者へ説明をすることになっておきまして、両校ともに保護者への説明は済ませておりますのでご承知おきください。</p>
日比野教育長	<p>「0件」であると学校が認識しているということを保護者が知ってい</p>

	<p>るかどうか。保護者側も学校側もいじめは無いと一致していれば良いわけです。子どものいじめを定義することは難しいことではありますが、見落としていないかということが大事だと思います。</p>
手嶋委員	<p>教師側からの認知件数が37件中4件ということで約1割となっています。学校側が「0件」とするの、先生方の受け止め方によるのではないのでしょうか。</p>
日比野教育長	<p>ハイパーQ Uや学力学習状況調査などの調査を活用していく必要があります。喧嘩は感情のぶつかり合いなので分かるのですが、いじめは大人の目を避けて発生していることが多く、見え難いと感じています。今はそのような隠れたこともなるべく見付け出して拾っていかうとしていますので、件数が増えてきています。</p>
<p>(5) その他</p>	
日比野教育長	<p>最後にその他ですが、何かありましたらお願いします。</p>
小田島事務局長	<p>※教育長職務代理者について説明。 ・鹿野委員には、平成29年11月28日から職務代理者に就いていただいている。引き続きお願いしたい。</p>
鹿野委員	<p>順番に交代という話は無かったですか。</p>
日比野教育長	<p>鹿野委員におかれては、いろいろな行事にご出席いただき本当にありがとうございます。引き続き、職務代理者の職をお願いいたします。</p>
鹿野委員	<p>分かりました。</p>
日比野教育長	<p>その他にはありませんか。 それでは、1月と2月の教育委員会定例会の開催日についてお願いします。</p>
	<p>※日程調整</p>
小田島事務局長	<p>※1月の教育委員会定例会について ・日時 平成31年1月25日(金) 午後3時から ※2月の教育委員会定例会について ・日時 平成31年2月22日(金) 午前9時から ・委員会後、引き続きFROM-0歳プラン推進事業最終報告会・次年</p>

日比野教育長

度補助金査定会議を予定。

以上で本日の定例会を終わります。お疲れさまでした。

閉会 午後4時30分